

令和6年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいち福祉医療専門学校

1 学校目標

- ・ 凡事徹底!! 不易流行!! S-S-K about Well-beingを目指すために、今こそ”学生を真中にした教育”を実践しよう!! 「みんなで仲良く楽しく」をモットーに仕事をしよう!!
- 1) 情報の共有・協働 2) 出席率98%超、退学率5%以内、進級率・卒業率92%超 3) 国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%
- 4) 総定員充足率80%(352名)以上の確保 5) PTOT科電子テキスト・モックサブリ運用/CM科実習支援システム導入 6) MicrosoftTeams活用
- 7) 校友会運用協働 8) 学生会正式発足 9) CPTOT科実習指導者研修会 10) 高・専接続が期待できる講座実現(C科初任者研修)
- 11) 実務者研修・認知症カフェ・総合確保基金研修(「健康プロモ」啓発研修)・出向ガイダンス・模擬授業・学校見学会の積極的受入
- 12) 新設学科(国際介護学科:1年課程 定員20名)の開設 13) 関連外部団体とのかかわり 14) 学園展開の海外との教育連携とともに実際的取組
- 15) 外国人留学生の積極的受入と教育力向上 16) 入学生195名(入学定員88.6%)【C:80, M:30, PT:35, OT:30, K:20目標】
- 17) A0エントリー者112名確保【C:25, M:24, PT:3, OT:28】 18) Webを有効活用した広報促進、OCリピーター確保
- 19) 経費削減、教育研究経費、管理経費の在籍者数に応じた意図的削除 20) 養成施設指定規則の準拠する教育環境整備および管理の計画的実施
- 21) 学科改編及び組織改革検討 22) 業務見直しと効率化 23) 学校目標ロードマップ共有/各数値目標階層的把握 24) 情報の共有・協働を見える化

学校目標に対する評価・意見

- ・ 国際介護学科の取り組みは今後必要と信じ、期待しております
- ・ 若い人の人口減少の中、たいへんと思いますが、あいち福祉医療専門学校さんは社会・日本の為にも必ず残り続けてほしいです
- ・ 介護の仕事を希望する者が減ってきている中で、これだけの学生さんを確保されるのは先生方の大きな努力の成果だと思います。また、学生数だけでなく、個々の介護職としての質にこだわった指導も素晴らしいと思います
- ・ IOTの活用で学びやすい環境ができていると思う
- ・ コロナウィルスが5類感染症へ移行されてことにより、施設等の感染対策も緩和されてきている。コロナ禍以前のように卒業生との交流や授業への協力を呼びかけ、現場へ出た際の戸惑いが軽減できるように働きかけていけたらいいと思う
- ・ 少子化、通信制高校卒業生等、今までと状況が変化している中での教育は大変かと思いますが、よろしく願います
- ・ 介護従事者不足の現状において、23名の外国人留学生の受入れと教育を熱心に行われている
- ・ 社会貢献、地域貢献は継続して行われている事は評価に値する
- ・ 卒業後のキャリアや卒業生の教育活動参加に対し、もう少し評価をしてもいいではないでしょうか
- ・ 退学理由の考察をもっとすべきではないか
- ・ 学校における職業教育の特区職は定められているか：3の評価でしたが、限られたカリキュラムの中でやれることはやっておられるので4で良いと思うが、他の学校と比較して選んで入学していただくためにも何か特色を持ってないと負けてしまう恐れがあるのでは、現状では4年生の大学を選ぶ学生も増えてきており、学生の数の減少も見えてきており、立地面の良さ+αが何かあればと考えます
- ・ SNSの活用を充実とありましたが、特に動画編集など職場に入ってから必要となってきます。スマホのアプリで簡単に使えますので、学生、職員を含めて講座を行い、最低限体得した方が良いと思います
- ・ お世話になります。保護者にもわかりやすい評価、取組改善の説明ありがとうございました。3年生のこの時期まで本人の努力と先生方の支えがあつての今だと思つて感謝しております

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準 1 (教育理念・目標)	4.0	4.0	4.0
基準 2 (学校運営)	4.0	3.9	3.9
基準 3 (教育活動)	4.0	3.9	4.0
基準 4 (学修成果)	3.8	3.6	3.7
基準 5 (学生支援)	3.9	3.9	3.9
基準 6 (教育環境)	4.0	3.9	3.8
基準 7 (学生の受入れ募集)	4.0	4.0	3.9
基準 8 (財務)	4.0	3.7	3.8
基準 9 (法令等の遵守)	4.0	4.0	4.0
基準10 (社会貢献・地域貢献)	4.0	3.9	3.9
基準11 (国際交流)	4.0	3.9	3.9

3 今後の改善意見

- ・財務状況がマイナスなのは残念です。国からの補助等をふまえ±0になりたいものです。
- ・企業等からの寄付などは受けていないのですか？
- ・今後の福祉教育の人材を社会に出すという大きな役割に期待をいたします。
- ・なかなか授業の兼ね合い等で難しいかもしれませんが、社会人として介護の現場で働くことは、体験談も含め、伝えられる機会があると良いのかと思います
- ・評価委員会でも少し話があったと思いますが、インターンシップ(2日～3日)があっても良いかと思います。また実習とは違った経験に繋がるかと思います
- ・現状、理学療法学科・作業療法学科のみが多職種との共同授業を実施しているが、介護福祉士も現場では多職種との連携が必須になってくる。学内でも4つの学科があるので、合同授業等が実施できれば、その職種に対する理解も深まって、現場に出た際に生きてくるのではと思う
- ・保護者の方のお話にはっとしました。自分も高校や大学の入学したばかりの日々は、友人ができるのか、授業についていけるのかと不安になっていたことを思い出しました。部活動でなくても、教員と共に少人数のランチ会やお茶会(シフォンケーキを食べながら)があると良いと思います
- ・卒業教育にも具体的に関わった方が良いのでは(学生との交流も含めて)
- ・地域包括ケアの中で、医療福祉の専門学校としての役割などアピールしたらどうか
- ・インターンシップ、課外活動でリンクできるよう学校として多様な経営ができないか
- ・1年次、2年次にもう少し幅広い教育と余裕が持てないか
- ・退学者減は経営改善にもつながる
- ・地域実習では、訪問リハ、老健、デイ等実習で行かれていると思うが、理学療法士、作業療法士で一生、現場で働いている療法士がなぜあまりいないのか、離職してしまって、全く違う分野で働いていたり、起業したりしているかを、現実も含めて学生のうちから承知していただきたいと思います。また、給与面などの待遇などを就職活動時に知るのではなく、知った上での進路選択できるようなカリキュラムもあって良いかと思われる。卒業生や現場実習のバイザーや第一線で働く療法士の話聞ける場も、実習の前にあると実習に対する取り組み方もかなり変わるとおもわれます
- ・アプリは「Cap Cut」が「Tik Tok」と連携しているので使いやすいです

・最後にもお話ししましたが、1年生の時期の専門的な難しい勉強の中、人間関係のつくり方、何を悩んでいるかもわからない学生一人ひとりに寄り添い、どこまでお願いしてよいのかわかりやすくサポートしていただけるようお願いしたいです

4 今後の改善方策

- ①指定規則により、教育内容及び学習時間が定められ、本校独自の特徴ある教育を編成することが困難な中、委員ご指摘のとおり視野を広める観点から、インターンシップ等をどう取り入れていくかが課題となる。可能な範囲でカリキュラム編成の見直し等を図りたい
- ②理学療法学科、作業療法学科で実施されている、安城医師会安城碧海看護専門学校との多職種連携共同授業は他に例を見ないユニークな取り組みとなり、一定の教育成果を上げている。今後、介護福祉学科も含めた取り組みを検討したい
- ③教養科目の充実とともに、特に理学療法学科・作業療法学科の1年次の退学を防止する観点から、1年次の教育内容を見直し、時間的余裕を持ち、学生が自ら考えることに主眼を置いた授業とするよう具体的な検討を実施する
- ④学校と社会（臨床現場）の円滑な移行を目指すことは重要であり、そういった意味合いから、卒業生等を招へいし、臨床のイメージ作りを一層強化したい
- ⑤ここ数年、本校の卒業生で組織する校友会を中心に卒業教育が活性化し、校友会主催の勉強会に毎回多くの卒業生の参加を見るようになった。今後も校友会活動について側面支援を行いたい
- ⑥学生支援としての課外活動の実施はカリキュラム上困難であるが、普段からの担任や学科での学生への関わりや補習等で還元していく
- ⑦ソーシャルネットワークサービス（SNS）は本校の教育活動を知らしめる有効手段と認識し、SNSを活用した情報提供の強化を図る
- ⑧18歳人口が減少する中、学生確保は本校をはじめ高等教育界の共通した課題でもある。あらゆる手段を講じて学生募集を行う。また、高等学校卒業生以外（外国人留学生や既卒者等）の入学促進を図る
- ⑨今後もハラスメント撲滅を目標とし、「学生を真ん中に置いた教育」を愚直に進めていく所存である